

2022年3月期決算概要（補足資料）

2022年5月13日

サクサ ホールディングス株式会社



■ 収益認識に関する会計基準の適用

当連結会計年度の期首から、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「新基準」という。）等を適用しております。

この結果、当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度と比較して大きく減少しております。

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績予想、将来予想については、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合がありますのでご承知おきください。

■ 本資料における数値の表示方法

本資料に記載されている各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。また、増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

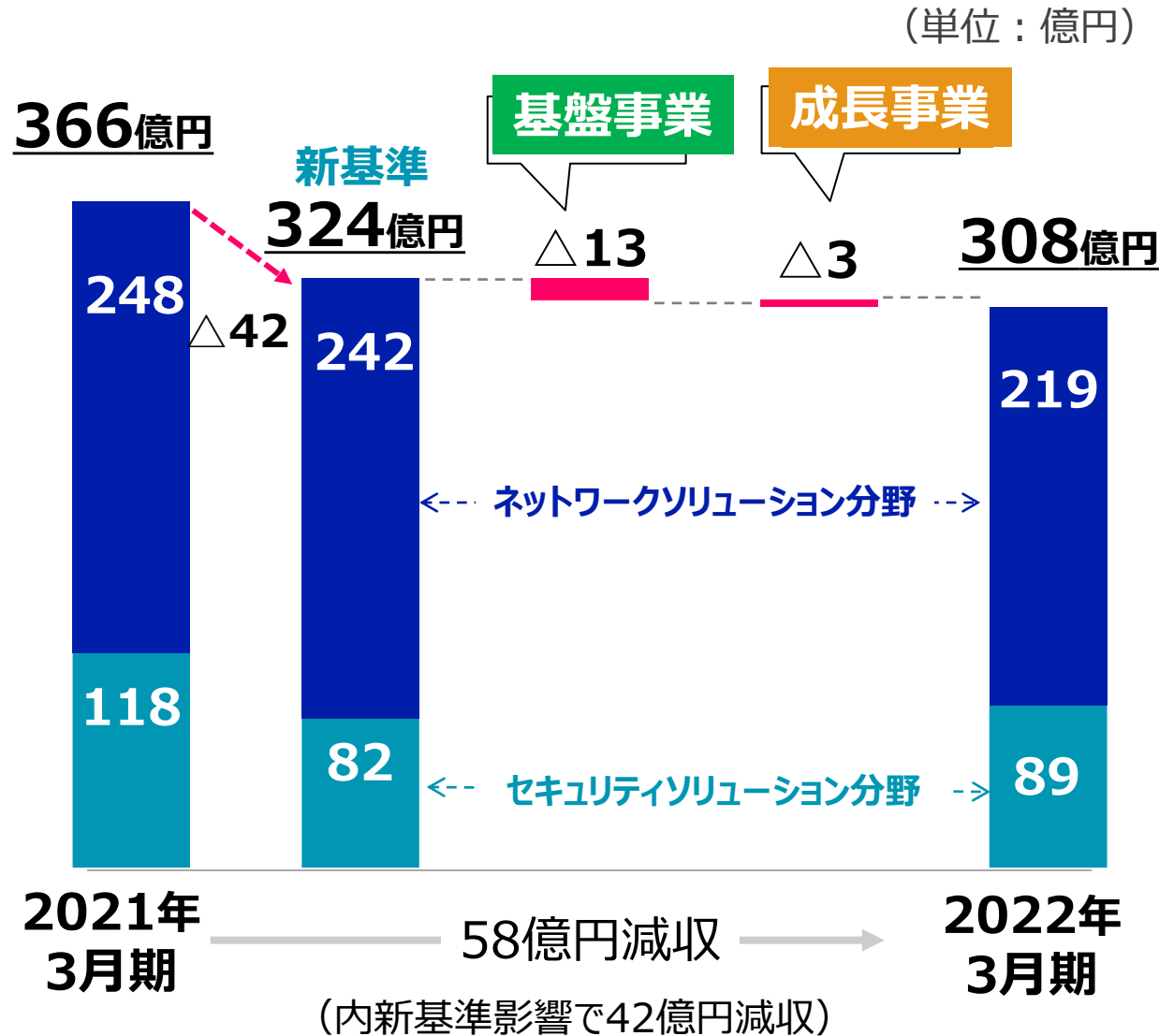
1 連結損益計算書

2022年3月期
連結業績概要

(単位：億円)

	2021年3月期 実績 (A)	2022年3月期 実績 (B)	増減	
			(B - A)	比率
キーテレホンシステム	126	104	△22	△17%
ネットワーク機器他	122	115	△7	△6%
ネットワークソリューション分野	248	219	△29	△12%
セキュリティシステム	49	55	+6	+12%
部品他	69	34	△35	△51%
セキュリティソリューション分野	118	89	△29	△25%
連結売上高	366	308	△58	△16%
連結営業利益	23	1	△22	△96%
連結経常利益	23	5	△18	△78%
親会社株主に帰属する当期純利益	△2	12	+14	—
1株当たり当期純利益	△37.31円	206.95円	+244.26円	—
ROE	—	5.2%	—	—
配当	30円	30円	—	—

2 連結売上高の主な増減内訳



(単位：億円)

	2021年3月期	2021年3月期 (新基準)	2022年3月期 (新基準)	差異 (新基準)
基盤事業	148	145	125	▲20
	115	80	87	+7
成長事業	100	97	94	▲3
	3	3	2	▲1

- ※ **基盤事業** : ボタン電話装置、公衆電話、防犯設備機器、アミューズメント、EMS、その他
- ※ **成長事業** : ビジュアルソリューション、ITビジネス、SIビジネス

3 連結売上高の事業別増減内訳

2022年3月期
連結業績概要

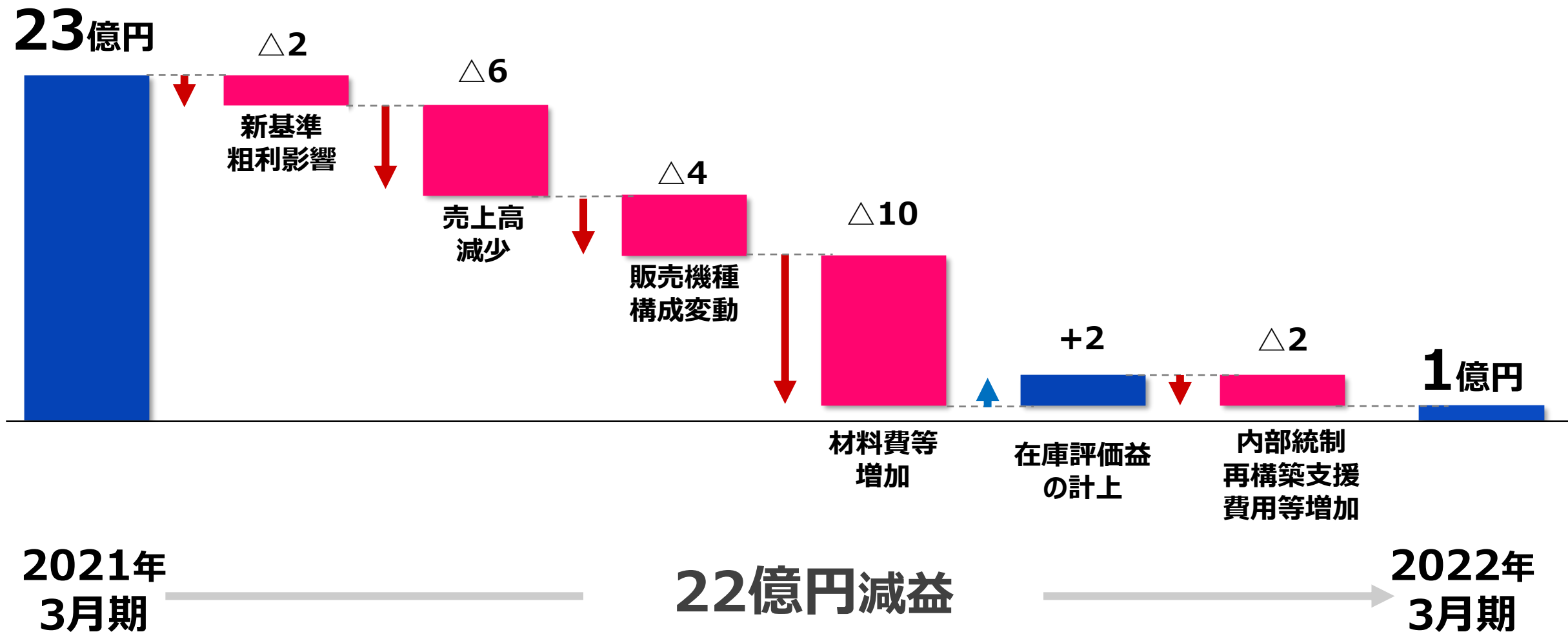
(単位：億円)

区分	2021年 3月期	新基準影響	2021年 3月期 (新基準)	2022年 3月期 (新基準)	差異 (新基準)	
基盤事業	ボタン電話装置	130	△3	127	106	△21
	公衆電話	10	—	10	11	+1
	防犯設備機器	30	△0	30	34	+4
	アミューズメント	34	△13	21	30	+9
	EMS	48	△21	27	26	△1
	その他	10	△1	9	5	△4
	計	263	△38	225	212	△13
成長事業	ビジュアルソリューション	12	△0	12	13	+1
	ITビジネス	57	△4	53	49	△4
	SIビジネス	34	—	34	33	△1
	計	103	△4	99	96	△3
合計	366	△42	324	308	△16	

4 連結営業利益の主な増減内訳

2022年3月期
連結業績概要

(単位：億円)



5 連結貸借対照表

2022年3月期
連結業績概要

(単位：億円)

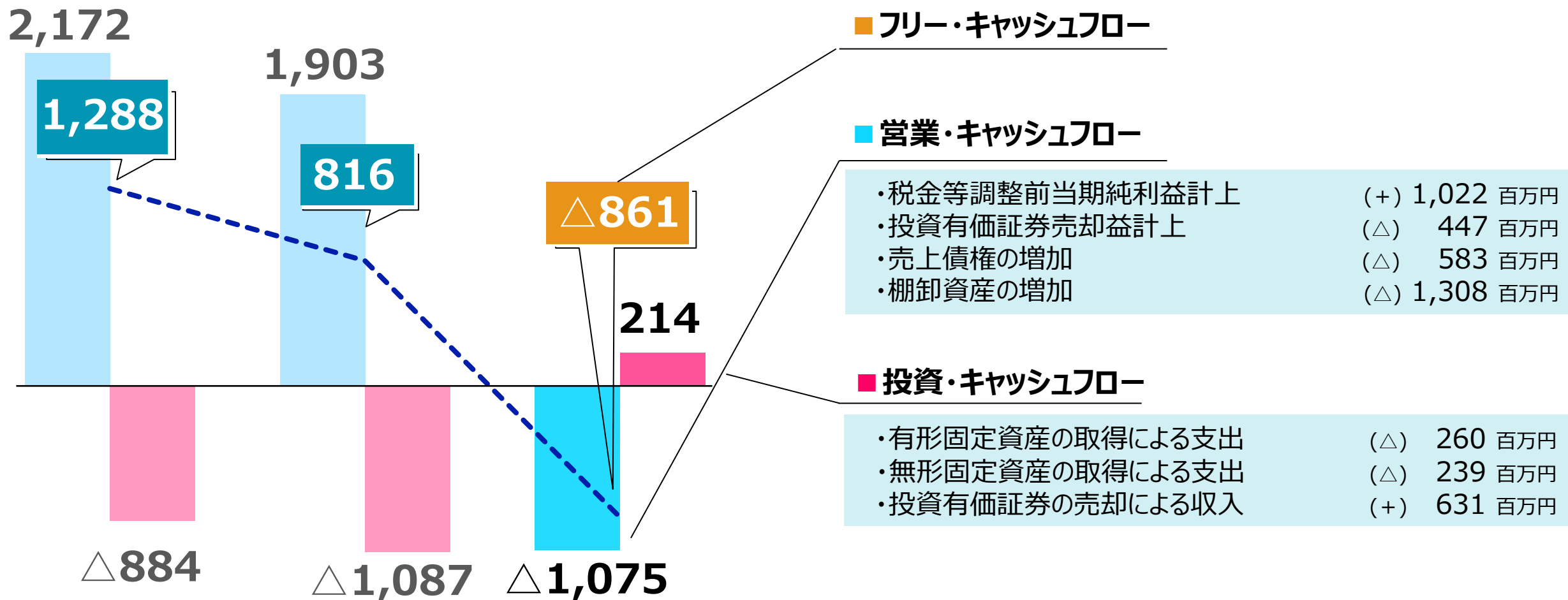
資産の部	2021年3月期 期末(A)	2022年3月期 期末(B)	増減 (B - A)
流動資産	215	224	+9
固定資産他	150	144	△6
資産合計	365	369	+4

負債・純資産の部	2021年3月期 期末(A)	2022年3月期 期末(B)	増減 (B - A)
流動負債	92	91	△1
固定負債	42	42	-
負債合計	134	133	△1
純資産合計	230	236	+6
負債・純資産合計	365	369	+4
自己資本比率	62.6%	63.8%	

6 フリー・キャッシュフローの状況

(単位：百万円)

2020年3月期 2021年3月期 2022年3月期





ビジョン (目指す姿)

つなげる技術の、その先へ。

心地よい暮らし、つまり、
安心で安全、快適で便利な環境の実現に向けて。
つなげる技術を、さらにつなげていくこと。
それを、お客様の明日へとつなげていく、サクサです。